

## 目次

- I フィルム製作の背景……………1
- II 「現代日本文学巡礼」……………4
  - 新資料紹介……………8
- III その後のフィルム……………24
- IV 他の久米家所蔵フィルム……………28
  - 協力者一覧

# I フィルム製作の背景

## (1)「現代日本文学巡礼」製作の

### 経緯／出版戦略の中の映像

大正の終わり頃日本は出版不況に陥っていた。そうしたなか、改造社社長、山本実彦は現状を打破すべく、一冊一冊で既成作家の代表作を作家別に編集した大規模なアンロシーである「現代日本文学全集」を出版した。これが関東大震災で失われた出版物の損失を補完する需要にも合致し、大ベストセラーとなった。各出版社も相次いで各種全集を出版し、ここから円本時代と呼ばれる一大ブームがおこったのである。

各出版社は新聞広告を中心に販売を促進したが、改造社はさらに、全国各地で作家の記念講演会を開催した。その講演をセットで上映されたのが「現代日本文学巡礼」といフィルムである。

この映像の監督を務めたのが久米正雄である。改造社の社員が山本社長で紹介で、各作家を訪ね歩くというスタイルで、多くの作家の日常が収められており、大変貴重なものである。

作家の講演会は、一九二七昭和二年五月に集中して行われた。作家数人がまとまりとなって地方をまわったのである。例をば芥川龍之介と里見弴は五月十四日の仙台を皮切りに、盛岡・函館・札幌・旭川・小樽と、東北・北海道方面で講演を行っている。なお芥川は青森でも急遽参加している。久米正雄は藤森成吉と名古屋・京都・大阪・神戸を訪れている。また武者小路実篤と佐藤春夫らは長崎・留米・鹿児島・大分・福岡・門司をまわっている(次頁参照)。

講演会の締めくくりに東京で五月二十日には国技館二十一日に報知講堂で盛大に行われた。

### 【例言】

1. 本書は郡山市こおりやま文学の森資料館 特別企画展の展示図録である。
2. 本展は、左記のとおり開催される。
  - 主催 郡山市 郡山市教育委員会
  - こおりやま文学の森資料館
  - (公益財団法人郡山市文化・学び振興公社)
  - 監修 山岸郁子(日本大学教授)
  - 協力 田端文土村記念館 菊池寛記念館 徳田秋聲記念館 武者小路実篤記念館 佐藤春夫記念館
- 会場 郡山市文学資料館企画展示室
- 会期 2019年9月21日(土)～12月1日(日)
3. 企画展開催にあたり、左記の機関より後援をいただいた。
  - 福島民報社 福島民友新聞社 朝日新聞福島総局 産経新聞福島支局 毎日新聞福島支局 読売新聞東京本社福島支局 福島テレビ 福島中央テレビ 福島放送 テレビユー福島 ラジオ福島 ふくしまFM 郡山FM(FMエフエフ放送局)
4. 解説文は常用漢字・現代仮名遣いを原則とした。活字化された書籍の引用文は基本的に原文を尊重したが、一部の漢字については活字の関係上新字を用いた。
5. 作品は□□、書籍・雑誌は○○と記述した。引用文の(略)は文章を略したことを示す。
6. 展示および図録編集は、佐久間正明が担当した。

### 【引用参考文献】

- 宇野浩二「文學の三十年」 中央公論社 一九四二年
- 小谷野敦・久米正雄伝「微笑笑の人」 中央公論新社 二〇一一年
- 庄司達也「孤地獄」(仙)「出帆の入稿原稿をめぐって」『芥川龍之介研究年誌』第二号、二〇〇八年
- 双文社出版、二〇一三年
- 土屋邦子・芥川龍之介の俳句「文藝七号」第二号、菊池寛記念館、二〇〇二年
- 武者小路実篤記念館「写真に見る実篤とその時代」Ⅱ 昭和一二〇年―二〇〇一年
- 記者小路実篤記念館「新しき村の二〇〇年、二〇一八年 山岸郁子フィルムの制作たち」宣伝ツールとしての『現代日本文学巡礼』』文学岩波書店、二〇〇二年
- 久米正雄全集「第十三巻 平凡社、一九三〇―一九三三年」武者小路実篤全集「第四巻 小学館、一九八八年」『日本近代文学大事典』第一―六巻、講談社、一九七七年、一九七八年



『現代日本文学全集』豫約募集内容見本(表紙・裏表紙)  
(山岸郁子氏所蔵)



『現代日本文学全集』  
1926(大正15)年～1931(昭和6)年 全62巻・別巻1 改造社



新聞広告「現代日本文学全集」  
『河北新報』1927(昭和2)年5月31日  
(庄司達也氏写真提供)



新聞広告「現代日本文学全集」  
『河北新報』1927(昭和2)年5月31日  
(庄司達也氏写真提供)

## (2) 久米正雄と活動写真撮影機

久米正雄は改造社から依頼を受け、「現代日本文学巡礼」の監督を務めている。なぜ久米に監督の白羽の矢が立ったのかについては、久米が当時既に活動写真の撮影機を購入し、自ら撮影を行っていたことも理由の一つと考えられる。

久米が撮影機を購入した正確な日時の記録は残っていない。しかし宇野浩二は、久米が撮影機を受け取る際に同行し、その時の様子を文章に残している。一九二四（大正十三年）四月二十四日に随筆社の主催で「玉川遊行」が行われた際に宇野が記した文章では、その撮影機について触れられている。

それによると、久米は映画の原資料が入ったので活動写真の機械を買ったこととなり、その機械を受け取りに永田町に行く。宇野はその際、久米に誘われて同行することになった。日時ははっきりしないが、「その時から三ヶ月間」とあり、「前から打ち合はせておつたらしく」とある（宇野『文学の三十年』）。

その後「現代日本文学巡礼」のフィルムは存在が忘れられていたが、久米の死後、一九七五（昭和五十一年）年にフィルムが久米邸で発見され、大きな話題となった。その当時のインタビュー映像で、久米の末子久米龍二は「撮影機は嫁に来る前からあった」と述べている。久米は一九二三（大正十二年）十一月十七日に結婚している。こうしたことから、久米が撮影機を購入したのは一九二三（大正十二年）頃であったと考えられる。

久米の愛機は、知人の俳優に貸したところ、その俳優が質へ入れてしまい、そのまま質流れしてしまったようである。龍子夫人は「私の方は道楽のタネがなくなつてホッとしました」と述懐している。



撮影機を構える久米

久米の兄・哲夫が洋行する際の見送りの様子。久米の隣は龍子夫人（P28参照）



撮影機を構える久米

昭和初期、船に腰かけているのは右より佐佐木茂索・久米龍二・さききふさ

それで、久米の文章を借りる前に、その時から三ヶ月間と、うしてさういふ事になつたかを感じてゐないが久米が映画の原資料五百圓であつたかかはひつたので、その金で簡単な活動写真の機械を買ふことになつて、それを取りに行くのであるが、二階に行かないか、とつた。そこで、珍しいので、久米と一緒にいくと、久米は、趣町の永田町の、見かけは立派であるが、明き家のやうな家に、私を案内した。その家に、久米が買った合はまであつたらしく、久米は、その機械を受け取り、映し方を知り、すぐ表通りに出て三宅坂と赤坂見附の間へんで道ゆく人を映しはじめた。——ただ、これだけの記憶である。——

宇野浩二『文学の三十年』より

A	仙台 (仙台市公会堂)	5月14日	芥川龍之介・里見淳
	盛岡 (盛岡劇場)	5月15日	芥川龍之介・里見淳
	函館 (函館市公会堂)	5月17日	芥川龍之介・里見淳
	札幌 (大通小学校)	5月18日	芥川龍之介・里見淳
	旭川 (鐘座)	5月19日	芥川龍之介・里見淳
	小樽 (花園小学校)	5月20日	芥川龍之介・里見淳
B	青森 (青森市公会堂)	5月21日	秋田雨雀・片岡鉄兵・芥川龍之介
	山形 (旭座)	5月22日	秋田雨雀・片岡鉄兵
	秋田 (秋田劇場)	5月23日	秋田雨雀・片岡鉄兵
	長岡 (長岡市公会堂)	5月25日	秋田雨雀・片岡鉄兵
	新潟 (新潟劇場)	5月26日	秋田雨雀・片岡鉄兵・近松秋江・吉田敏二郎
C	福島 (福島公会堂)	5月13日	秋田雨雀
D	甲府 (桜座)	5月19日	谷崎精二・室伏高信
	松本	5月20日	谷崎精二・前田河宏一郎・葉山嘉樹・上司小剣・池谷信三郎
	長野 (権生座)	5月21日	谷崎精二・前田河宏一郎・葉山嘉樹・上司小剣・池谷信三郎・野口米次郎
	山形 (柳座)	5月22日	谷崎精二・田中純・池谷信三郎・岡本田虎雄・犬養健
	宇都宮 (宮樹座)	5月24日	谷崎精二・田中純・木村毅・岡本田虎雄
	水戸	5月25日	田中純・犬養健・野口米次郎
	千葉 (赤十字社新館)	5月26日	田中純・木村毅・岡本田虎雄・中河与一
E	東京 (国技館)	5月30日	武者小路実篤・久米正雄・藤森成吉・横光利一・長谷川如尾四・野口米次郎・菅川臨風・豊島与志雄・菊池寛
	東京 (報知講堂)	5月31日	里見淳・芥川龍之介・片岡鉄兵・三宅やす子・久米正雄・犬養健・堀口大学・川路柳虹
F	横浜 (指路教会)	5月27日	横光利一・木村毅・上司小剣・犬養健・堀口大学
G	静岡 (若竹座)	5月14日	野口米次郎・広田義雄
H	富山 (富山県会議事堂)	5月27日	近松秋江・吉田敏二郎・三宅やす子・佐藤春夫
	金沢 (沼田座)	5月28日	近松秋江・吉田敏二郎・三宅やす子・佐藤春夫
	福井 (福井市役所市会議事堂)	5月29日	近松秋江・吉田敏二郎・三宅やす子・佐藤春夫
I	名古屋 (県会議事堂)	5月15日	久米正雄・藤森成吉・吉江孤雁・横光利一・木村毅・高橋亀吉
	京都 (脚時公会堂)	5月16日	久米正雄・藤森成吉・吉江孤雁・横光利一・木村毅・長谷川如尾四
	大阪 (中ノ島中央公会堂)	5月17日	久米正雄・藤森成吉・吉江孤雁・横光利一・木村毅・長谷川如尾四・新村正
	神戸 (基督教青年会館)	5月18日	久米正雄・藤森成吉・吉江孤雁・横光利一・千葉亀雄
J	奈良 (奈良第一小学校講堂)	5月28日	新居格・川端康成・池谷信三郎・高須梅溪
	津	5月29日	新居格・川端康成・池谷信三郎・高須梅溪
	岐阜	5月30日	新居格・川端康成・池谷信三郎・高須梅溪
	和歌山	5月31日	新居格・川端康成・池谷信三郎・高須梅溪
K	岡山	5月19日	有島生馬・新居格
	広島	5月20日	有島生馬・新居格
	真島	5月21日	有島生馬・新居格
	下関 (稲荷座)	5月22日	有島生馬・新居格
	松江 (出雲劇場)	5月24日	有島生馬・新居格
	鳥取	5月25日	有島生馬・新居格
	米子	5月26日	有島生馬・新居格
L	今治 (今治公会堂)	5月25日	富田碛花・片上伸・細田源吉
	松山 (松山新座)	5月26日	富田碛花・片上伸・細田源吉
	丸亀 (丸亀記念公会堂)	5月27日	富田碛花・片上伸・細田源吉
	高松 (高松市大ホール)	5月28日	富田碛花・片上伸・細田源吉
	徳島	5月29日	富田碛花・片上伸・細田源吉
	高知	5月31日	富田碛花・片上伸・細田源吉
M	長崎 (八幡座)	5月15日	佐藤春夫・武者小路実篤・高須梅溪
	久留米 (恵比寿座)	5月16日	佐藤春夫・武者小路実篤・高須梅溪
	鹿児島 (鹿児島朝日新聞社大ホール)	5月18日	佐藤春夫・武者小路実篤・高須梅溪
	大分 (大分県会議事堂)	5月21日	佐藤春夫・高須梅溪
	福岡 (東洋博大会場)	5月22日	佐藤春夫・高須梅溪
	福岡 (西中州第一公会堂)	5月23日	佐藤春夫・武者小路実篤・高須梅溪
	門司 (門司町講堂)	5月24日	佐藤春夫・武者小路実篤・高須梅溪

「現代日本文学全集」講演映画大会」開催地  
※班司・井原・山岸編2013「改造社のメディア戦略」より引用